



はこまち対談

今回は、「函館圏フリースクールすまいる」を運営している庄司さんに、活動への思いをお聞きしました。

庄司 証さん

Akashi Shouji

◆プロフィール

函館圏フリースクール すまいる 代表

函教大大学院卒。チーフキリスト教学園(七飯町)10年間勤務し、
2012年「函館圏フリースクール すまいる」設立。函教大非常勤講師。



【聞き手】地域交流まちづくりセンター センター長

丸藤 競(まるふじきそお)

丸藤：学校のような場所をイメージしてくる方にどうせ、「えつー、何それ？」って思ひかもしません。

司：「フコースペースは、心を休める場」と自分で自身自身を呪つめる時間がなつてこまよ。そして、お

いつ風に言われた体験がないのでしようね。子ども達は何をしたら「ダメ」なのかを聞くんです(笑)。携帯使つたらダメですよね、お菓子食べちゃダメですよね。それで「いいんだよ。自分で決めた」とは好きにしてわらひんだよ」といつてごおず。

丸藤子とモ達は何をしてしるのですか？

多めです。

丸	藤司：「リースクール」といっても色々な活動があると思いますが、すまいるさんが行つてらるることは?。
庄	司：不登校のお子さんへの居場所支援が中心です。訪問支援や相談などを行つてます。対象としては小学生から高校生の年代ですが、今年は小学生が多めですね。
丸	藤司：子ども達は何をしてるのですか?。
庄	司：それぞれ思ひ思ひに週じしてます。基本的には「何をしてもらひし、何もしなくてもらひ」場所なので。でも、今まだ「いつ風に言われた体験がないのでしようね。子ども達は何をしたらダメ」なのかを聞くんです(笑)。携帯使つたらダメですよね、お菓子食べちゃダメですね。それで「こうなんですよねつて。それで」「こうなんだよ。自分で決めたことは好きにしてもいいんだよ」と聞つてます。
丸	藤司：学校のような場所をイメージしている方にとっては、「リースクール何それ?」って思うかもしれません。

庄司：不登校のお子さんへの居場所支援が中心です。訪問支援や相談なども行っています。対象

庄司：小学校の先生になるために大学で学んでいく中で、無理だ！と思つたんです（笑）。クラスに30～40人いるけど僕の許容範囲の中では責任持って携わつてつけない。改めて自分の夢を見つめ直していく中で、自分は、学校教員ではなく、子どもと関われる存在になりたいのだと思つたときにフリースクールが見えてきたんです。

丸藤：函館にはしばらくフリースクールがありませんでしたよね。庄司：子どもの居場所が必要だと思って、誰かやりませんかと声

丸藤：学校に戻す活動というわけではなし。

庄司：「学校に行つたの？」って一回も言つたことないですね(笑)。でも、すもうねで活動して元気になつて「早く戻つてくんのです」「来週から来ません」「えへなんど?」「学校に行きまわる」つて(笑)。寂しい思ひと、また元気に頑張ろつと思つたんだなあとじつ嬉しかもあります、

丸藤：活動のきっかけは?

庄司：小学校の先生になるために大

だから、過度なフレッシュナーをかけない空間を作り、子どもたちの自主的な活動ができるだけ

を掛けたんだとかが最終的に僕やります、と(笑)。2012年に、まちづくりセンターを借りて週一回のスタートでしたが、今は1軒家を借りて常設できるようになりました。

丸藤：運営で大切にしていることは？

庄司：子どもの意思を尊重するといいことじです。あとは安全面ですね。



丸藤：子ども達が参加したことがありますね。

庄司：「来たいです」って書いたりもすれば(笑)。最初に面談をしますが、学校じゃありませんし、スタッフも緊張するので「顔合わせ」くらいの感覚です。基本的には自由なのですが、他の方に迷惑をかける」とや危ないこと、犯罪だけはしないでくださいとお伝えしています。

丸藤：今の子ども達についてはどう思いましたか？

庄司：素敵ですよ(笑)。“すまいる”という名前をつけた理由でもあります。子ども達の笑顔つてまるでありますよ。そして未来を感じるからこそ活動できます。

丸藤：大人たちは、社会の中はどう子供を見ていけば良いのでしょうか？

庄司：不登校は単純に学校に行かないだけで、悪いことをしているのでも、可憐そうなわけでも、

丸藤：「すまいる」は学校を否定しているわけじゃないんですね。

庄司：はい。全然そんなことないです(笑)。学校って大切なところだけだ、全部をもんぶに抱つこううわけにもできません。

フリースクールが地域資源としてあって、学びのきっかけの場としてうまく機能できればいいと感じます。

丸藤：最後に子ども達へのメッセージを。

庄司：立ち止まって見えてもらひよ。振り返ってみてね。かしがしたり、そこから新しくなってが築けるかもしねえし、見つかるかもしねえ」ですね。もちろん進む必要は必ずしもな前に進む必要は必ずしもないと思つんですけど、背中を押されるように感じます。

丸藤：それって、悩める大人にも通じることです。

庄司：そうですね。今の自分に言つたことかもしない(笑)。そんな大人もいるんだよ。だから君たちも大丈夫、ということが伝わればいいですね。

丸藤：でも、待つのって大変ですよね。

庄司：大変です(笑)。書いたじし、誇り

丸藤：その魅力が失われるわけでもないんですね。社会として、ひとりの人にとってその子どもをどう見ていくかだと思います。

丸藤：今後の計画はありますか？

庄司：中学までは義務教育期間です

丸藤：今後の計画はありますか？

庄司：中学までは義務教育期間です